

どうして？

## なんで、芽が出てこないんだろう？

糸魚川市立中央保育園（新潟県糸魚川市）

[5歳]

## &lt;意図&gt;

今までは、「どんな野菜を育てたいか」と、相談して栽培物を決める取り組み方だった。しかしその方法では、ドキドキワクワクするような経験にはつながらなかった。そこで、『畑の神様』から手紙と謎の種（枝豆・トマト・オクラ）が届き、「何だろう？」「不思議だなあ」「面白い！」「どうなるんだろう？」という気持ちを土台に、考えたり調べたりしながら、子どもたちが自分の力で育てていく栽培活動にしようと考えた。

## 場面1 『畑の神様』から手紙と謎の種（枝豆・トマト・オクラ）が届く

5月中旬

種を見て、触れて、匂いをかいで、子どもたちは「トマトの種に形が似てる」「匂いがキウイみたい」「種の真ん中の線みたいな所から芽が出てくるんじゃない？」など、感じたこと、気付いたことを伝え合う。

## 場面2 カップの中の種を見たり調べたりする（種をカップに入れて身近な場所に設定）

友達同士数人で集まって、カップの中の種や野菜の本や図鑑を見る。1ページずつめくりながら、カップの種と見比べている。A児「これは…違うなあ」B児「じゃあ、これは？」A児「こっちの方がちょっと大きいから違うよ」と、気付いたことを伝え合う。枝豆のページになり、A児が「あっ！これ！同じじゃない？」と気付いて言う。C児「似てるね」D児「僕、家で枝豆育ててるよ」保育者「そうなんだ。Dちゃん家の枝豆の種はこれと同じだった？」D児「う～ん。似てるような…」A児「じゃあ、枝豆かもね」と言い、子どもたちは期待を膨らませる。

## 場面3 種を植える

「どうしたら、何の種なのかわかるのかな？」という保育者の言葉から、子どもたちは「植えてみたら何の種かわかるかもしれない！」と考えを出す。3種類の中で自分が植えたい種の一つを選んで植える。昨年、トマトとピーマンを苗から育てたことで、「野菜が育つには水と太陽と応援が必要だ」と気付く経験をした子どもたちは、その後、水くれをして「応援しよう」と言う声が自然にあがる。子どもたちが自分の種を応援していくうちに、枝豆は“シロ種”、トマトは“チビ種”、オクラは“クロ種”という名前に決まる。

## 事例 「なんで私のは、芽が出てこないんだろう…」

A児は毎日忘れずに水くれをするものの、なかなか芽が出てこない。友達の種は葉も開き、どんどん大きくなっていく。

A児は水くれをしながら不思議そうに自分の種の所と友達の芽を見比べて「なんで私のは、芽が出て来ないんだろう…」とつぶやく。

A児自身が「なぜだろう？」と感じたところで、保育者は「Aちゃん、どうしたの？」と言い、A児と一緒に考えるようにかかる。

A児が「私のだけ芽が出てこないの」と言い、保育者が「本当だ。何でだろうね？」と言う。

しばらく黙っていたA児「掘って見てみる！」と植えた所を掘ってみる。すると、種が割れていたり、種から芽が出ているもの下を向いていたりして、A児は悲しそうな表情になる。保育者が「どうして出てこなかったんだろうね？」ともう一度声を掛ける。

A児は少し考えて、「水あげ過ぎちゃったのかな…。種を奥まで入れちゃったのかな…。種の黒い所（そこから芽が出てくるだろうと予想した所）を下にしちゃったからかな…」と自分のことを振り返りながら考え、ボソッとつぶやく。保育者は「そっか。きっと大きくなって欲しいって思って、いろんなことを考えて大事に育ててあげると芽が出てくるんだね」と言う。

A児は、水くれはしていたものの、細やかに気を付けて育てていなかったことを自分なりに感じた様子だった。A児は穴を開ける時に穴の深さに気を付けたり、種の向きに気を付けたり、水の量を調節したりして丁寧にもう一度種蒔きをする。それから数日後、芽が出てA児は大喜びだった。



## 場面4 葉っぱに穴があいたり白くなったりする

6月下旬

畑に植え替えをしたら、葉っぱに穴があいたり白くなっていたりするようになる。子どもたちは「青虫が食べた」「ナメクジだ」「カラスかもしれない」などと原因を考える。そして、「青虫ならキャベツ、ナメクジならトマトだ」と話し合い、キャベツやトマトを置いて観察する。トマトの穴からナメクジが出たことを発見し、「ナメクジだ」と分かる。

ポイント

子ども自身が「これでいい」という思いをもって意欲的に栽培をしています。そのため、A児は「芽が出ない」という予想や思いとの違いにより、「どうしてだろう?」という不思議さを感じて疑問をもち、振り返って気付いたことを手がかりに、再度種を蒔いています。栽培活動では、この事例のように“芽が出ない”“枯れる”“花が咲かない”など予想通りにならないばかりでなく、栽培物それぞれ生長は違うので、その状況を共有しながら折々の子どもの体験や友達同士のかかわりを把握することにより、援助の視点が明らかになります。

<科学する心が見える — 不思議さを感じる> 「どうして?」

ここから見える

A児は忘れずに水やりをしているのに、どうして自分の芽が出ないのか、不思議そうに友達の芽と見比べています。4歳の時に、「野菜が育つには水と太陽と応援が必要だ」と気付く経験をしているので、「水も太陽も応援もしているのに、どうして自分の芽は出てこないのだろう?」という思いになり、**予想通りにならない“不思議さ”を感じている**のです。

- ① 「何で私のは、芽が出て来ないんだろう…」とつぶやく。  
保育者 「Aちゃん、どうしたの?」と言い、A児と一緒に考える。
- ② 「私のだけ芽が出てこないの」  
保育者 「本当だ。何でだろうね?」
- ③ しばらく黙っていたが「掘って見てみる!」と蒔いた所を掘る。
- ④ 種が割れていたり、種から芽が出ているが下を向いていたりしている様子を見る。
- ⑤ 悲しそうな表情になる。  
保育者 「どうして出てこなかったんだろうね?」と寄り添い声を掛ける。
- ⑥ 少し考えて、「水あげすぎちゃったのかな…。種を奥まで入れちゃったのかな…。種の黒い所(そこから芽が出てくるだろうと子どもたちが予想した所)を下にしちゃったからかな…」と、ボソッとつぶやく。



- ・ 何で、自分の蒔いた種は芽が出ないのか? 不思議さや疑問を感じ、考えている。①
- ・ みんなは芽が出ているが「自分のだけ芽が出ない?」ということにも着目して、疑問を深めている。②
- ・ 芽が出ない理由を知るために、掘って土の中の種の様子を見たいと考え、保育者に伝える。③
- ・ 土の中の種を見付け出し、観察する。④
- ・ 種から芽を出そうとしていたり芽は出ていたりしたが、土から芽を出せない様子がわかり、やはり自分の種だけ芽が出ないことを受け止めている。芽を出せない種を見て悲しくなる。⑤
- ・ 土の中の種の様子を観察することで、芽を出せなかった理由を「毎日あげていた水の量」「種の位置」「種を蒔いた時の向き」など具体的に考える。⑥

「どうして、自分のだけ芽が出ないのか?」という疑問をもったA児は、「友達と同じように種蒔きをした」「毎日水をあげていた」という意識があるので「それなのにどうして芽が出ないのだろう?」という不思議さにより大きく心を動かしています。この「**どうして?**」という**不思議さを探求したいという思い**により、「掘って見てみる!」という言動が引き出されました。このような考えをもっているため、掘り返したA児は種をよく観察して、芽が出ない理由を考え直しています。また、このA児の体験や行為は、A児を取り巻く子どもたちみんなの問題や学びになっていると思われます。

子どもたちは「大きくなる」「花が咲く」「実が生る」ことに期待をもって真剣に栽培活動をしています。この事例からは、芽が出ないことを「良し悪し」ではなく、「どうしてだろう?」と考えることで、「科学する心」が育まれています。保育者は飼育栽培に関する環境や知識、援助を踏まえた上で子どもに寄り添い、探求心や自然とかかわる力を育む保育を展開することが重要です。また、子ども自身が命を感じ、よく考えて自分から栽培物にかかわる体験が大切です。

視点を  
変えて